

± 砂災防止のため

一年

七月

廿六

ぼくは今までに土砂災害を二回経験して
います。

一回目は夜、起きました。その日は入院し

ていたお母さんが退院してきただけでした。久

しがりに家族で過こしていきると知り合いから

「山がくずれ、道路がとおれななな」てい

と連絡があり、急いで道を見にいきました。た

くさんの土砂が道をふさいでいました。とお

れる道は他にほなく、もし今、お母さんの具

合が無くならたらどうしようかと、お母さんと

そつになつたのを覚えています。そして、道

路が復旧するまで船でタームを渡すことになり

ました。お母さんの車から船にのるとこ

ろまでいき、船で対岸までいき、そこから知

合いに車を借りて生活をじていきました。い

も通りの生活にもとまるまでの間、ぼくはもの

すごく長くかんいました。

二回目もすぐに起きました。知り合いのおじ

い

さんか、つくすれえうなところがあるから、
 なるするなら今だよ。と教えてくれました。
 ほくはお母さんと新せきの家に行きました。
 長、ほくが、お母さん、おすくに、家の中の
 ちおぼあちゃんからや、はりくられた。とい
 ぶ人にもな、た。という連絡が来た。
 このときは車中泊もしました。コンビニまで
 に、温泉、車でぬて、学校に遅刻しました。
 まごしつらから、ちのを今でも覚えています。
 完全に普及するまでは家から車で行き、徒歩
 1
 ぶほう落現場を通り、スクールバスで学校へ
 行きました。少し雨がふつた。けで通行止め
 になりました。すこしの雨でも学校にいけず
 自宅にいさになりました。運動会の時で、
 当日は雨がふつた。しょうとほくは、うん
 うかいに、さんか、で、さ、ない、と、さ、い、た、と、さ、い、と、い、う
 ても、う、ん、び、う、かい、に、さんか、し、た、い、と、お、母、さ
 ん、に、お、ね、か、い、し、た、こ、と、も、覚、え、て、い、ま、す、。い、い、
 経験が、で、さ、た、と、思、い、な、さ、い、と、お、母、さ、ん、は、い、い、
 ま、し、た、。こ、も、そ、の、時、ほ、く、は、も、の、す、こ、こ、つ、ら、く

かんじました。ほくほくのけいけんをしるか
 ら大雨がふつと、うなところをさかしていま
 した。そのことにほくほく、家族や近所の人と
 の話の話題からきつきました。大切なとか
 もしれないけれど、ほくほくはこのことに
 時、少しづつかんじました。
 自然災害は、とうすうすることでも、
 かもしんないけれど、被害を最小限に
 めることか、ではないかと思っています。落石や、
 土砂ほう落を防止するためには、金あみが土
 砂でいっほいにな、こいるのと、そのま
 ちあるところか、ほくの通学には、た
 ります。
 一次に大雨がふつたら、この土砂か
 びは、ないか。
 と、思うところも、たんとあります。災害に
 そなえることか、でき、いれは、被害は、
 さいげんに
 さいぎの、びは、ないか。でも、それか、
 いかに、ほくほくは、思っています。ほくの
 さいぎ、いかに、ほくほくは、思っています。

この人たちは孤立してもいいようにか
い
めをしたりにしています。でも孤立しないよう
に
にすることを大切にのびほいかとほくは
い
います。孤立すること前乙には孝えい
い
いけないと思えます。